

わ

が

街

わ

が

故

郷

三重中西金属株式会社と津市

中西金属工業の工場を、このコーナーに取り上げていただくのはこれで3回目となりますが、今回は三重県津市のほぼ中央東部、津の駅から南南西へ約9kmほどの距離にあたる、津市久居（ひさい）地区に事業所を置く三重中西金属株式会社と、久居地区並びに津市の文化・歴史などについて紹介させていただきます。

工場のある久居地区は、平成18年1月1日に施行された、旧津市、旧久居市、旧河芸町、旧芸濃町、旧美里村、旧安濃町、旧香良洲町、旧一志町、旧白山町、旧美杉村の10市町村合併で津市に編入されました。旧久居市は、古くは伊賀や奈良から伊勢地方に通じる街道筋にあたり、昔から人の往来が盛んな地域でした。しかし伊勢湾から内陸に位置することや、四日市、津などのように、企業誘致や大型石油コンビナートなどの産業招致を精力的に行わなかったため、今日では静かな旧街道街としての佇まいを残しています。

会社の紹介

当社はその久居地区に本社を置く、地域の中核企業であり、設立以来一貫して地域の一員として生産活動に従事して参りました。

少し具体的にご紹介しますと、三重中西金属は、中西金属工業の軸受事業部門の国内におけ

る中核工場として、昭和35年2月に設立されました。敷地面積約3.8万㎡、建物面積1.6万㎡の規模を持ち、現在は従業員数260名の陣容で、外径86mm以下の標準量産型波型保持器の製造と、同じく直動、ピロー用特殊ゴムシールを主体に多品種少量品の製造に携わっております。



三重工場

中西金属工業の標準タイプのゴムシール製造は、その大半をフィリピンにあるNPC（NKC MANUFACTURING PHILIPPINES CORPORATION）へ製造移行しており、中西金属工業にとっては、当社が国内で唯一のゴムシール工場でもあります。したがって、マザー工場として生産技術の開発並びに新製品の開発・量産展開といった重要な機能も果たさなければなりません。

フィリピンとの人材交流も盛んで、毎年フィリピン工場から現地従業員が技術研修で当社を

訪問しています。そのような外国人研修生の受入経験も豊富なため、本年度から海外技術研修生受入制度も導入し、現在10名のフィリピン人研修生が社内で技術習得にいそんでいます。

ところで従業員の多くは、近隣の津・松阪や、久居地区に居住しており、その大半は自動車通勤を行っています。当社が大阪にあるため、エンジニアや事務系職員などは本社からの転勤で、同じく近隣地域に居住しており、関西方面からの遠距離通勤はほとんどありません。

工場周辺には工場もなく、近鉄の久居駅を挟んで当社と反対側に、陸上自衛隊第10師団第33普通科連隊などの駐屯地がある程度で、おおむね自然に囲まれた閑静な好ロケーションといえるでしょう。

周辺を「食べる」、「見る」、「遊ぶ」、「浸かる」、「歩く」。

食^ゑべる

うなぎ

あまり知られていませんが、津市は人口あたり鰻の年間消費量が日本一なのです。それだけに鰻専門店も津市を中心に30店近く存在します。当社の近くにも昭和初期に創業し、鰻一筋の「丸円」というお店があり、地元では有名店となっています。

梨

久居や香良州（からす）地区は、地元では有名な梨の産地。当地の梨は表皮の色が濃い「幸水」や「豊水」が主流。観光梨園も多く、秋になると工場近くにも即売所がオープンします。

天むす

「天むす」といえば名古屋の名物と思われるようですが、実は発祥は津なのです。かつて天ぶら屋を営んでおられた「千寿」という店の先代女将が、お忙しいご主人のために栄養のあるもの

をつくらせてあげたいと考案されたもので、「元祖めいぶつ天むす」は登録商標となっています。

味噌カツ

味噌カツも、名古屋の代表的食べ物と思われがちですが、実は1965年頃にオープンした、レストラン「カトレア」さんの、オープン当時から看板メニューなのです。味噌カツといえぱこってりしていると思われがちですが、八丁味噌をブイヨンで薄めたソースは、あっさりとしたソースで大好評。そのおいしさが津からやがて名古屋にも伝わり、今や名古屋の味噌煮込みうどんとともに、名古屋の名物料理の代表選手となったのです。

見^みる

青山高原

標高700~800mで、南北にわたって約15km続く高原地帯です。青山高原は年間安定した風が吹き抜けることから「風の通り道」と呼ばれており、国内最大規模の風力発電装置が数多く立ち並んでいます。久居・榊原は高さ75mクラスのもの、また美里地区のウィンドパークには、高さ100mの巨大発電装置が立ち並んでいます。中西金属工業の天満製鉄事業部製による風力発電装置も設置運用されています。



風力発電装置

駐屯地資料館

久居駅近くにある、陸上自衛隊第33普通科連

隊駐屯地内部には、明治41年に建設された旧陸軍の建物を利用した資料館で、旧日本軍の兵装などが展示されています。また、74式戦車なども展示されています。事前予約で見学が可能です。さらに、香良州歴史資料館（若桜会館）においても旧海軍飛行予科練習生の遺影や遺品などが展示されています。

北畠氏館跡庭園

南北朝時代に、南朝側について戦った北畠一族を奉った北畠神社内の庭園。庭園は幕府管領であった細川高国によって造園されたとも、京都の相阿弥が作ったとも言われています。

観光客は、京都や奈良に比較して少ないため、庭園をのんびり散歩できます。枯山水や築山が優雅で、観光客を室町時代へ案内してくれます。



北畠氏館跡庭園

遊ぶ（夏遊び）

御殿場海岸・香良州海岸

南北にそれぞれ1.1km、2kmと白砂青松が続く美しい海岸です。



御殿場海岸

夏には例年多くの海水浴客や、海岸で開催される花火大会に近畿地方や東海地方から観光客が集まります。波も穏やかで遠浅のため、週末には家族連れなどで賑わいます。シーズンによっては潮干狩りも可能で、浜茶屋から漂う焼き蛤や焼きあさりのにおいが食欲を誘います。

浸かる（温泉）

津市にはたくさんの温泉があります。秘湯あり、隠れ湯風ありで、源泉掛け流しも多く、近畿東海圏から多くの温泉愛好家が訪れます。

榊原温泉

平安時代には「七栗郷」と呼ばれていた榊原温泉は、清少納言の「枕草子」にも、「湯はななくりの湯、有馬の湯、玉造の湯」と謳われたほどの名温泉です。泉質はアルカリ性単純泉で、入浴すると肌がツルツルになり、「美人の湯」として有名な温泉です。

また、津には火の谷温泉、猪の倉温泉、一志温泉などがあり、露天風呂もあります。



旅館と深谷

歩く（街道を歩く）

津は、関西方面から伊勢神宮へ続く街道筋にあたるため、たくさんの街道があります。代表的なのは伊勢街道で、津から伊勢に向かう海沿いを南下します。そしてこの伊勢街道に繋がる街道として、伊勢別・伊賀・奈良・初瀬・伊勢本など、いくつもの街道が遺されています。

それぞれの街道には、鎌倉時代以降の名所旧跡がたくさんあり、津は、健脚を競うハイカーたちに人気の地となっています。

(中西金属工業株式会社 三重工場)

